

授業科目名・形態	保健統計学 講義	必修・選択の別	選択	単位数	2
科目担当者氏名	野坂 大喜	実務経験の有無	有	開講期	3年前期

【授業の主題】

この授業では、様々な保健指標や厚生労働統計資料の見方や考え方、看護師や保健師としての実務において必要な統計学に関する知識や手法を学びます。保健統計学は医学・看護学分野での研究や地域保健活動などにおいて有効性の判断や、保健政策や健康プログラムの効果の評価に必須の知識になっています。

【到達目標】

様々な医療データや資料から正しく情報を読み取り分析・考察できること。調査の計画から実施・分析・評価の方法を理解できること。よく使用される保健統計学解析方法について活用できること。の3点を到達目標とします。

【授業計画・内容】

第1回	保健統計及び統計の基礎	～ 取り扱うデータと統計学的関数 ～
第2回	疫学の基本と検定の手順	～ EBM の考え方と統計学的検定 ～
第3回	2つの平均値の比較	～ よく用いられる検定方法1 ～
第4回	2つの平均値の比較(演習)	～ よく用いられる検定方法2 ～
第5回	2つの比率の比較	～ よく用いられる検定方法3 ～
第6回	2つの比率の比較(演習)	～ よく用いられる検定方法4 ～
第7回	保健情報と率の調整方法	～ 基礎的用語の解説と注意事項 ～
第8回	因果関係と危険度の指標	～ 病気と原因物質との因果関係を証明するには ～
第9回	保健・医療データの相関関係	～ 因果関係と相関関係の違い ～
第10回	保健・医療データの収集方法	～ 病気と原因を解明するためのデータ収集～
第11回	データ抽出とバイアスの影響	～ 調査方法の種類と交絡因子の解析 ～
第12回	スクリーニングデータの解析	～ 敏感度特異度と適中度について ～
第13回	患者予後についての分析	～ 生命表法の基礎と応用について ～
第14回	臨床疫学での保健統計処理	
第15回	保健統計学のまとめ	
第16回	期末試験	

【授業実施方法】

基本的には講義形式で行いますが、所々で演習を取り入れます。
演習において理解度を確認しながら、双方向性のある授業を心がけます。
演習での理解度に応じて内容レベル(難易度)を若干変更する場合があります。

【授業準備】

統計学の基礎知識について事前学習が重要です。
疫学の知識が必要不可欠ですので、用語ならびに指標の算出式は事前に確認してください。

【主な関連する科目】

「統計学」「疫学」「公衆衛生学」

【教科書等】

ぜんぶ絵で見る医療統計 羊土社 ISBN : 978-4-758-11807-1
その他講義資料を配布します。

【参考文献】

医学・保健学のためのやさしい統計学 金原出版 ISBN 978-4-307-77171-9
世界一やさしくわかる医療統計 秀和システム ISBN 978-4-7980-3119-4
国民衛生の動向 厚生労働統計協会

【成績評価方法】

筆記試験 80%、演習への取り組み 20%により総合的に評価します。

【実務経験及び実務を活かした授業内容】

医療情報処理に係る実務経験を活かして、実践的な保健統計解析知識と解析技術の習得を目指します。

【学生へのメッセージ】

授業中に演習を課します。ノート PC を授業の際にお持ちください。
※必要となる授業については第1回目に指示いたします。
期末試験については電卓をご用意ください(関数電卓が望ましい)。
履修にあたり、関連する既習科目の内容を理解していることが必要です。